

株式会社 キッソオ

対 象 類 型 精密加工
事 業 類 型 新たな生産方式の導入
主たる目的 生産性向上、市場開拓

眼鏡産地「鯖江」の未来を見据えながら、 時代の変化に対応し、新たな分野や技術に挑戦



- 1 素材の表面を切削し、厚みを調整する武田機械プレートミル3M 2/切削前の厚みが自動測定され、タッチパネルで求める厚みなどのデータを入力すれば、切り込み回数が自動決定される 3/カッターの下には12枚の刃が取り付けられており、66×18cmのアセテート板なら5分前後で約2mm薄く加工できる 4/常備されているアセテート素材は約5,000種類

素材の“厚み落とし”の精度を高め、品質と収益がアップ。

眼鏡業界の市場が縮小する中で、同社が取り扱う眼鏡フレーム材料のメインになったのがアセテートである。イタリア、中国から輸入した板状のアセテート材料をフレーム製造会社に販売。しかしその厚みにはばらつきがあるため、一部は表面を切削して厚みを落とし、自社で加工できない場合は外注で対応していた。この表面切削加工は同社の強みであったが、従来の切削機は厚みの調整はできるものの表面の仕上がりが粗く、後工程の研磨加工に時間を要していた。さらに、材料を手で持ち、加減をみながら機械に押し入れていく作業は、破損や傷が残るなどのトラブルが起こりやすく、熟練し

たベテラン社員しか従事できなかった。

そこで、自動で安定した切削加工ができる武田機械プレートミル3Mを導入し、厚みの寸法はもとより、表面状態についても高精度の加工が可能となった。本機は、搭載された測定装置が切削前の厚みを測定し、求める厚みや材料のサイズを入力すれば自動で切削されるため、熟練社員以外の従業員も従事できるようになり、本作業は内製化された。また、格段に高まった品質をアピールした営業と付加価値を上乘せた価格での取引ができるようになり、高難度高単価の受注が増加し収益が高まっている。

注目すべき 成果

高品質の眼鏡材料を
安定供給できる
体制を確立。

材料の厚み調整における寸法、表面処理の精度が高まり、顧客の幅広い要請に応えながら、質の高い眼鏡材料を安定して供給できるようになった。また、品質向上により付加価値が高まり、価格と収益もアップしている。

事業活動の 付加価値

切削加工の属人化が
解消され、柔軟な
人材活用が可能に。

従来の切削機による材料の厚み調整は手作業のため、熟練社員しか従事できなかったが、容易に操作できる自動切削機の導入により他の従業員が携われるようになり、アルバイトも含めたシフトが組めるようになった。

今後の展望

ものづくりを体感できる
“テーマパーク”を創設。

アクセサリ加工など外注している工程を全て内製化し、一連の製造過程を見学できる“ものづくりのテーマパーク”創設を目指す。これに先駆け、眼鏡材料の入荷から加工、出荷までの流れを紹介する準備を進めている。

ものづくり専門員から一言

色彩豊かな
メガネ素材を身に着ける

本事業により内製化を実現したことで、リードタイムが短縮されたことに加えて、高品質化、コスト削減により付加価値の向上につなげている。アセテート素材を使用したアクセサリ製品は彩りも華やかで、社内敷地に設置されたショップも必見です。

情報通信技術を活用し、ものづくりの新たな展開を。

眼鏡材料の商社として創業し、材料加工も手掛けながらアセテートの販売を強化してきました。アセテートは多彩なデザインが可能のため、12年前にアクセサリーの製造・販売を開始。最近では、これらにデジタル上の付加価値を持たせようと、デジタル資産が唯一無二のものだと証明する「NFT(Non Fungible Token)」の活用に取り組んでいます。次世代インターネットWeb3.0や、暗号技術で取引履歴を記録・保護するブロックチェーンを活かしたものづくりの新たな展開を考えたいですね。眼鏡の材料と技術で新しい商品を作ることが、眼鏡産地「鯖江」のPRになると思っています。



代表取締役
吉川 精一さん



ショップに並ぶアクセサリ



本社

株式会社 キッソオ

代表者/代表取締役 吉川 精一
設 立/1995年(平成7年)3月
資本金/1,500万円
従業員数/10名
事業内容/プラスチック製品製造・販売

本社: 〒916-0019 鯖江市丸山町4-305-2
TEL.0778-54-0355 FAX. 0778-54-0383
E-mail yoshikawa@kisso.co.jp
URL https://japan.kisso.co.jp